

## INDOSPEED RACE SERIES 2013 - Putaran 3 参戦報告書

Race #1 決勝 5位

Race #2 決勝 10位

- ゼッケン/エントリー名 : #21/ JBR-M Synergy Force TRICKSTAR
- ライダー : 佐藤 周
- 監督 : 鶴田 竜二
- 開催日 : 6月29日(土)~30日(日)
- サーキット : Sentul Int'l Circuit /インドネシア
- マシン : カワサキZX-6R
- 結果 : 6月29日(土)RACE#1 決勝 5位  
6月30日(日)RACE#2 決勝 10位

第2戦よりシーズン前より準備していたレースマシンにて参戦となったが、今シーズンからコースの路面とタイヤの仕様変更によりフロントが跳ねるという症状に苦しめられた。今回はその症状を解消する為に事前のテスト走行を行ってからの参戦となった。

6月28日(金曜日)レース前のテスト走行を行った。前日の練習走行にてエンジン不調の原因を突き止める事ができ、この日は朝から順調に走行する事が出来た。しかしフロントの振動の問題により思うようにタイムが上がらず試行錯誤を繰り返す。午後になり更に気温が上がってきた。

午後の走行枠1本目にて今シーズンのベストタイムを出すもフロントが跳ねる症状が収まらずタイムが伸びて行かなかった。午後よりサーキット側の都合により急遽走行時間枠が減ってしまい、走行時間ギリギリまでセッティングをするも改善する事が出来ずこの日の走行を終えた。



6月29日(土) 予選 Weather Condition: Sunny

朝のフリー走行は前日に  
打ち合わせたセッティングにて走行。  
前日よりフロントの症状は収まるものの  
完全に解消する事は出来ず  
予選開始時刻間際までミーティングと  
調整を繰り返し予選に臨む。

マシンの状態は昨日までよりも  
良い方向へ向かったものの  
フロントの振動問題は完全に解消する事が出来ず  
1分32秒858というタイムを出したところで  
走行枠を5分残し予選を終える。  
時間いっぱいまで走行しタイムを縮めたかったが、  
予選からRace1, Race2まで同じタイヤを使用しなければならないという  
レギュレーションの為ここで予選を終える。  
マシンは良い方向へ向かったものの完全に修正する事が出来ず  
予選終了後も監督、メカニック、ライダーたちで入念な打合せの上、  
午後からのRace1へ向けマシンセッティングを進めた。



6月29日(土) 決勝Race#1 Weather Condition: Cloudy

予選と同日に行われる決勝Race1。  
4番グリッドからスタート。  
オープニングラップを4位キープにて通過。  
しかし、3周目に後続のマシンに抜かれてしまい5位へと順位を落とす。  
フロントが跳ねるという症状は改善されたが、加速時にリアサスペンションが  
跳ねるという症状が発生し、ペースを上げる事が出来ず、5位のままフィニッシュ。  
レース後、監督、ライダー、メカニックにて新たに発生したリアサスペンションが跳ねる症状の  
改善案を洗い出し、夜を徹してマシンのセッティングを行い翌日のRace2への準備を進めた。

5月12日(日) 決勝Race2 Weather Condition: Sunny

決勝Race2。  
Race1同様4番グリッドからスタート。  
オープニングラップはスタート直後の混戦時に接触し順位を3つ落とし7番手にて通過。  
Race1終了直後からRace2スタート直前までチームでミーティングを繰り返し、  
セッティングを見直した甲斐がありリアサスペンションの跳ねは大幅に改善されたが、  
リアタイヤの接地感を掴む事が出来ずペースを上げられない佐藤選手。  
3周目に5位に浮上するものの、周回を重ねるごとに後続マシンとの差は詰まっていった。  
そして、残り6周となったところで差が無くなってしまふ。  
そこから激しい5位争いをファイナルラップまで続けるも、  
ファイナルラップに接触しコースアウト、転倒となった。  
マシンもライダーも無事であったためコース復帰をチェッカーを受けるも10位という結果に終わった。

## 【ライダー 佐藤周】

フリー走行と予選時は前回のレース後、マシンのフレームを変更した事で、苦しめられていたフロント周りの跳ねは軽減されました。しかし、雨に邪魔されたり、予定されていたフリー走行の時間が急遽減らされたりしたため、マシンのセットアップをうまく進める事が出来ませんでした。また、今年から変わったタイヤの特徴も僕自身がなかなか掴む事が出来ず、マシンをタイヤに合わせる事が出来ていない事も大きな問題点だったと思います。予選はセットアップの進まなかったマシンで思うように走れず4番手。予選と2回のレースで使用出来るタイヤは1セットだけなので、悔しい結果でしたが早々に終了することにし、午後からのRace1に備える事にしました。Race1ではセッティングがまだ詰め切れていなかったため、序盤から思ったようなペースアップが出来ませんでした。オープニングラップから3台のトップグループに離され、4位との差も徐々に開き、終始5位を走行。終盤に6位のライダーに迫られましたが何とか5位のままでチェッカーを受けることが出来ました。Race2ではRace1での問題点をチームで話し合い、朝のウォームアップ走行でマシンセッティングを大きく変更して臨みました。スタートはまずまずでしたが、混戦の1コーナーで他車と接触、後退して7位でオープニングラップを終えました。セッティングを大きく変更した事により、良い方向に進んだ部分も有ったのですが、他の問題点が発生し、またペースを上げられない状況でした。レース序盤・中盤と2台を抜き5位で走行していましたが、徐々に迫ってきた6位のライダーに抜かれ、終盤は激しいポジション争いとなりました。最終ラップのホームストレートで抜き1コーナーイン側から進入したのですが、接触しコースアウト。グラベル上で転倒してしまいました。マシンにダメージがほとんど無かったため、コースに復帰しチェッカーを受けることは出来ましたが最下位の10位という結果に終わりました。レース1・レース2と本当に情けない結果に終わり、関係各位、スポンサー様、応援して下さいの皆様、チームに申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、まだ4レース残っていますので、最後まで諦めずチーム一丸となってシリーズを戦って行きますので、今後も応援宜しくお願いします。



## 【監督 鶴田竜二 コメント】

シリーズタイトルを獲る為には今回のレースは絶対と云うくらい勝たなければならない状況でした。しかし結果は、ほぼ惨敗に等しい結果でした。勝てなかった理由を上げれば切りがありません。前回のレースの教訓を活かしチームとして準備し必死で取り組んだのですが、今ひとつ力が足りなかったのでしょうか。この現実をしっかり受け止め、次回は巻き返したいと思っております。応援いただいているスポンサー様をはじめファンの皆様、いつもありがとうございます。残念な結果ですみませんでした。ただ今後も最後まで諦めずに取り組みますので引き続き応援よろしくお願い致します。